

江戸時代に発達した文化には、詩歌、茶道、華道などがある。和算もその1つである。この日本独自の和算が西洋の数学と大きく異なる点は、学問としてというよりも民衆の文化として発達したところにある。和算は、各階層・各地方へと伝播していったが、その要因の一つには江戸時代中期より発生した数学の絵馬の影響があった。

ここ西濃地区においても、谷幽斎・森島簡斎・浅野天極斎という偉大な和算家が現われ、彼らの門人が近くの神社仏閣に幾つかの算額を奉納している。

この素晴らしい文化的な要素を有する算額の術文を現代的な解答で後世に残していきます。

岐阜県西濃地区奉納算額の解説書をご希望の方はメールにてご連絡ください。

記入事項 郵便番号 住所 名前 電話番号 希望の書名

(または書名の前の丸数字) で何冊か

E-mail:mizuryu@aqua.ocn.ne.jp

- ① 天保13年(1842) 南宮大社奉納算額 解説と解答 (令和2年10月)
12題 37ページ A4版
- ② 天保年間 大垣八幡宮 奉納算額 解説と解答 (令和2年11月)
10題 35ページ A4版
- ③ 弘化2年(1845) 南宮大社奉納算額 解説書 (令和2年12月)
8題 35ページ A4版
- ④ 元治2年(1865) 金生山明星輪寺奉納算額 解説書 (令和3年10月)
12題 47ページ A4版
- ⑤ 天保年間 大垣八幡宮 奉納算額 幽斎算約四編 解説書 (令和3年10月)
32題 43ページ A4版
- ⑥ 慶応元年(1865) 大垣市外野釜笛八幡宮奉納算額 解説書 (令和3年10月)
7題 19ページ A4版
- ⑦ 天保12年(1841) 田代神社奉納算額 解説書 (令和3年10月)
10題 37ページ A4版

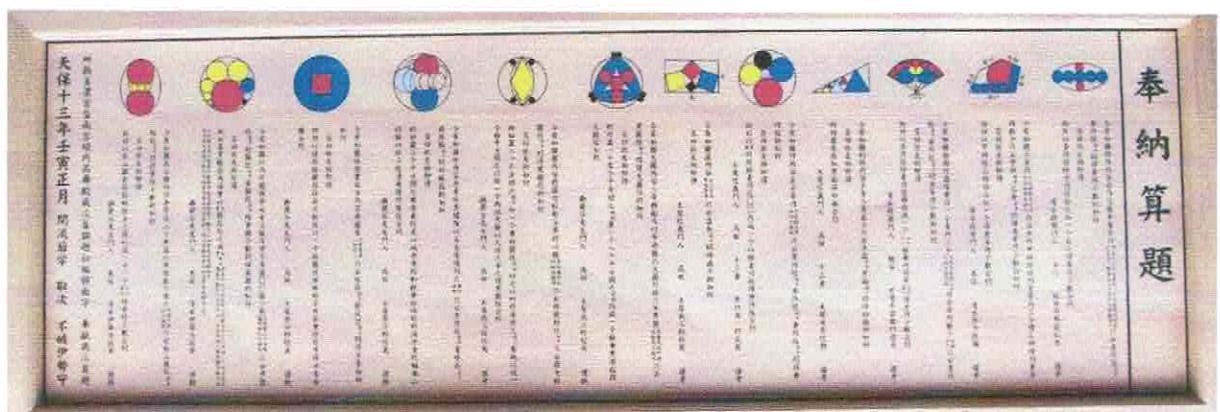
定価 各々 600円(送料込)

天保13年南宮大社奉納算額(複製)

解説と解答



不破郡垂井町宮代 南宮大社 楼門



横188cm 縦68cm

天保年間大垣八幡宮 奉納算額

解説と解答



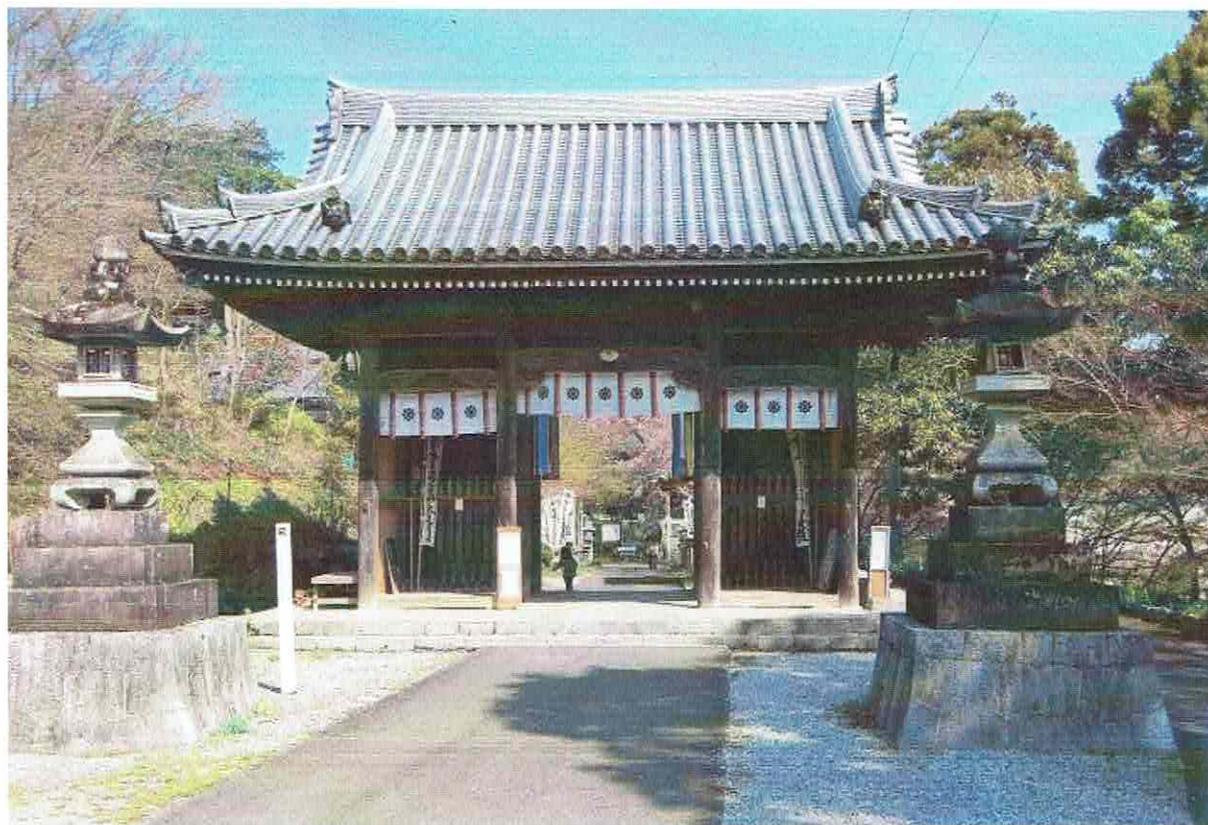
岐阜県大垣市西外側町一丁目 八幡神社



大垣八幡神社にある算額（複製） 横 188 c m 縦 68 c m

江戸時代末期、谷松茂（幽齋）は大垣藩士で致道館講官であった水野民興に学び、自ら塾を開いて和算を教えていました。彼の門人達が大垣市の八幡神社に天保年間に算額（絵馬）を奉納しています。この算額は残念ながら先の戦争で神社ごと焼失したことを知り、奉納された算額は復元をし、後世に残しておきたいと熱望した次第です。

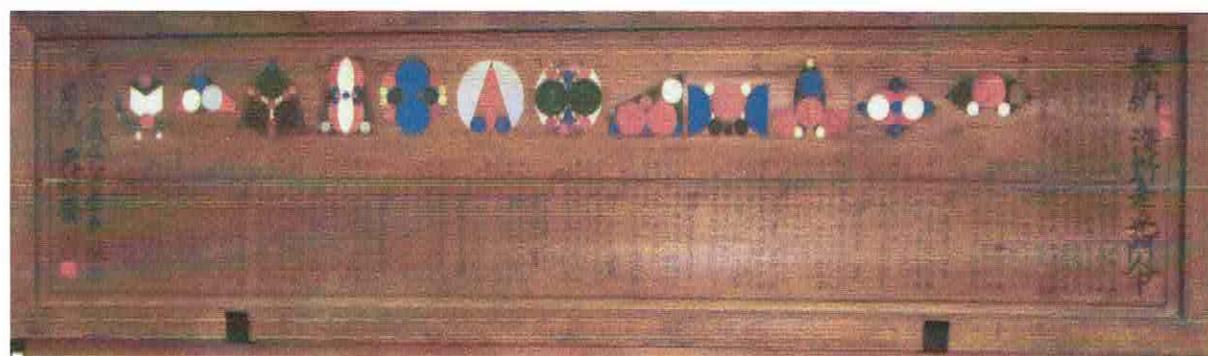
元治2年(1865)金生山明星輪寺奉納算額 解説書



大垣市赤坂町

金生山明星輪寺

山門



岐阜県重要有形民俗文化財 大きさ 横 240 cm 縦 60 cm

算聖関孝和の流れを汲む大垣藩領内の安八郡（現在は大垣市）外野郷算光堂塾長浅野孝光(天極齋)の門人12人(うち女子3人)が奉納したこの算額絵馬は、初段から10段までの12問が、円形、三角形、菱形などを多角的に組み合わせ、赤、白、黄、浅青、緑の彩色された幾何学模様の難問である。この算額は神仏に奉納し、感謝を捧げると共に、後世の人に「解いてみよ」とチャレンジを促している。

天保年間大垣八幡宮 奉納算額

幽齋算約四編 解説書



岐阜県大垣市西外側町一丁目 八幡神社

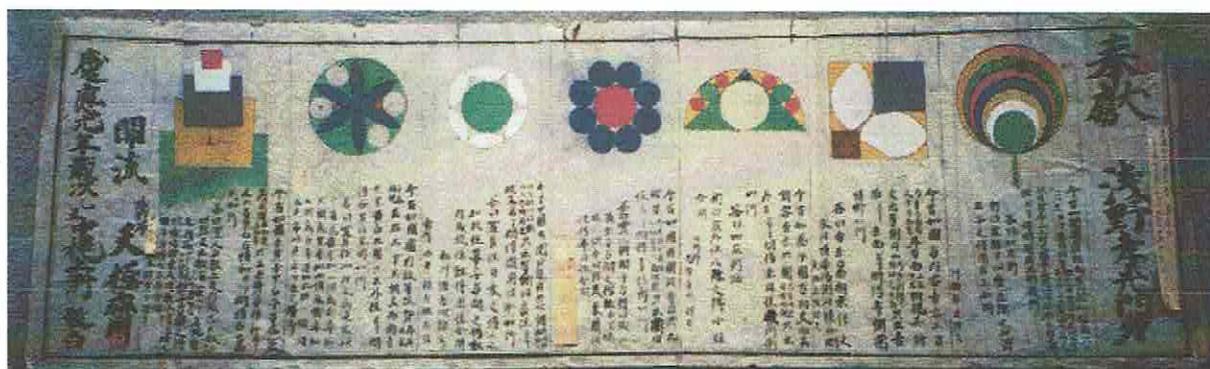


江戸時代末期、谷松茂（幽齋）は大垣藩士で致道館講官であった水野民興に学び、自ら塾を開いて和算を教えていました。彼の門人達が大垣市の八幡神社に天保年間に算額（絵馬）を奉納しています。この算額は残念ながら先の戦争で神社ごと焼失したことを知り、奉納された算額の解法を後世に残します。

慶応元年(1865)大垣市外野釜笛 八幡宮奉納算額 解説書



岐阜県大垣市釜笛 1 丁目 203 番地 釜笛八幡神社



和算研究家 小寺裕氏の「和算の館」サイトから貼り付けました。

この算額は大垣市外野釜笛 釜笛八幡宮 宮前地藏堂に浅野孝光(天極斎)の門弟が1865年に奉懸したものです。高木重之著の「岐阜県の算額の解説」から問題文を参照して、現代的な解法を載せます。

「和算の館」のサイトは www.wasan.jp

天保 12 年 (1841) 田代神社奉納算額 解説書



養老郡養老町高田 田代神社



現存する算額 (養老町指定文化財)

縦 65 c m 横 99 c m